

パーク関連のお土産として持っていくものがなかなかない。 ■一カ月以上持つような、一番いいと思うものが稲庭うどんだが、認定商品の数が少ないので、うどん業界にお土産用の商品について検討していただきたい。 ■駅の観光案内所で販売することは難しいため、観光物産の直売所があればもっとPRできるのだが。 ■湯沢市ジオパーク推進協議会が商品認定しているが、認定商品をどのように活用していくのかが見えない。事業者の皆さんにはジオパークを活用した商売の方法をがんばって考えていただきたい。

Q. 会の活動やジオパークの認知度を上げるための情報発信・PRについてどのように考えているか？

■会の認知度を上げ、いろいろな人に来てもらうためには、何らかのメリットが必要であり、このため、さまざまな業種の事業者と一緒に行動を起こさなければならぬ。 ■最近認定ガイドの募集活動と一緒に情報発信を行っている。今後もジオパークに関連する団体やグループ、メンバーに情報発信を続ける。 ■市民が集まりやすい場所は市役所。そこにジオの旗が立っているだけでPRになる。 ■市民へのPR方法が一番の課題。市民がジオパークを知ることが、県内外へのPRにつながる。

Q. 活動をしている際に課題だと思っていることや問題を感じていることは？

■2014年に発足し約9年となるが、ジオパークの研修を受けた人は令和3年が6人、令和4年は1人と減少しており、市民のジオパークに対する熱意は下がってきていると感じる。 ■常設のPRの場が足りない。まるごとうどんエキスポの際にPRエリアを設けたら多くの方に見ていただけた。 ■「湯

沢は何もない」と思われがち。この意識を変えたいと、タクシー会社と連携して講習会を実施して、観光客などにPRしていただいている。 ■ジオパークと絡めて湯沢を売り込むには地熱が一番と考えている。ジオは地熱からつながっていることを売り物にしたいが、地熱に関してはPR不足であり、売り込むものがない。 ■ジオパーク弁当などの商品化を行って活性化につなげている事業者もいるがまだ少ない。もっと事業者の参加と活動の活性化が必要。 ■観光客がお土産を買うのは「ここ」という場所がない。

Q. 湯沢市や湯沢市議会に期待することは？

■市に情報提供を求めたり要望を伝えたりするときは湯沢市ジオパーク推進協議会を経由しているが、うまく伝わらない。市との連携をもっと強固に、そしてスムーズになるようにしていかなければならない。 ■いま一度、市民にジオパークを売り込み、関心を高めたい。例えば町内会でジオパークを見学する際に市のバスを貸すなど市の協力をお願いしたい。 ■市が予算をかけて推進するのであれば、市民ロビーの一角にPRコーナーを設けてはどうか。また、ガイドが常駐して月に一度はジオサイトを案内するジオパークの日を決めてはどうか。

■地熱のまちゆざわの「地熱」の認知度を高めるために、モニターツアーを市が主催して、市民が気軽に参加できるようにできないか。また、地熱のPR館を湯沢駅周辺に設置してほしい。 ■議員の皆さんにジオサイトを巡ってもらい、情報発信をしていただきたい。また、ジオパーク検定を受験するなどして意識を高めてほしい。

という試みを小安峡で行いました。他の観光地でも行いたいと考えています。

石川委員長 誘客のためにモニターツアーの再開を求める声がありますが、今後の計画は？

高橋聡課長 日本ジオパークの認定を受けてから昨年で10年を迎えました。これからはしっかりと商品づくりをして呼び込みを行い、目的を持って湯沢に来ていただけるような展開を考えていかなければと思っています。

石川委員長 ジオパークの中でも「地熱」は売り込むための重要なコンテンツと考えますが、今後の計画は？

高橋聡課長 高松地区センター2階のジオスタ☆ゆざわには、ジオパークや化石、市の文化財の展示のほか地熱関連の展示室も設けています。ジオパークと地熱、ジオパークと文化財との結びつきといったストーリー性のある形で分かりやすく展示できるように、市教育委員会などと協議していきます。

石川委員長 ゆざわジオパーク認定商品は認知度を上げるコンテンツの一つと考えますが、今後の活用方法は？

高橋聡課長 11月に認定した商品は、PRのため商品の特性や成り立ちをユーザーで配信しています。認定商品を増やしていくために、事業者の皆さんに認定を受けるメリットを丁寧に説明していくことや、レジ横に置く小さなのぼりを配付して認定商品をPRすることなどを検討していきます。

